

国立劇場 小劇場・大劇場



所在地：東京都千代田区隼町4-1
敷地面積：31,245㎡
建築面積：9,575㎡（大劇場・小劇場含む）
定員数：大劇場1,616名・小劇場594名
施工主：独立行政法人 日本芸術文化振興会
施工：建築/株式会社 竹中工務店
照明設備/東芝エルティエエンジニアリング 株式会社
改修完了：2014年2月

S274

東京都千代田区の国立劇場が、調光設備をリニューアル。
歴史と伝統によって培われた使い勝手の良さを継承しながら、
将来的なカラーLED照明の導入に備えた高機能化を実現しています。

歌舞伎、日本舞踊、文楽など日本の伝統芸能を伝える国立劇場

東京都の中心部に、奈良の正倉院をイメージさせる外観で静かに佇む国立劇場は、1966年10月の創設以来、まさに日本の伝統芸能の中心として愛され続けている国内屈指の劇場です。歌舞伎をはじめ、演劇や日本舞踊などが演じられる大劇場と、文楽、邦楽、雅楽など比較的小規模な演目が演じられる小劇場を擁し、今回は、その両劇場の調光設備を同時にリニューアルしています。

伝統的な使い勝手の良さと拡張性、将来性を両立

国立劇場では、創設時から東芝製の調光設備を導入しており、これまでも伝統芸能の照明演出に対するニーズを反映させながら更新を重ねてきました。今回の更新は、光ケーブル敷設を含むデジタル化工事の一環として、省エネルギー性能に優れたカラーLED照明の将来的な導入と実用に備えた機器の導入、DMX回線数の拡大、バックアップ機能の充実など、照明システム全体を拡充し、同時に、老朽化した調光操作卓、プリセットフェーダ盤、色選択ボックス、舞台袖操作器などのリニューアルを実施しています。

大劇場、小劇場には同じ仕様の機器を採用。これにより、演目や演出の急な変更、機器故障時のトラブルにも柔軟に対応できる体制としています。

操作系の設備はすべて長年培われた使い勝手を継承したもので、独立したハードウェアによって迅速にミスなく操作できるよう設計。立盤タイプのプリセットフェーダ盤は、指先の感覚だけでフェーダ位置が把握でき、長いストロークによって繊細な調整が可能な太鼓型を採用。フェーダのつまみ部分は歌舞伎の定式幕の3色、黒、柿色、濃い緑（萌葱）に配色されています。また、指定した色とレベルをボタンひとつで呼び出せるカラーチェンジャー用色選択ボックスも継承されています。さらに歌舞伎特有の設備として、花道用の照明を操作する、揚幕操作盤、花道の途中にある小さなセリの下に設置された、すっぽん操作盤など、調光室から演者を目視できないシーンのための舞台袖操作器も複数設置されています。



小劇場の調光操作卓



真上から調光操作卓を望む



小劇場のプリセットフェーダ盤



小劇場の舞台中央より客席を望む



花道の舞台寄りにある小さなセリ(すっぽん)を使用する際に照明操作を行う、すっぽん操作盤



ワイヤレス操作器



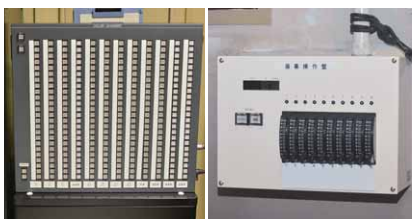
大劇場の調光操作卓



大劇場のプリセットフェーダ盤 240本×3段の立盤タイプで太鼓型フェーダを採用



さまざまな情報を表示するモニター画面(上段および下段左はセッティング画面、下段右はセットアップ画面を表示中)



カラーチェンジャー用の色選択ボックス

花道の演者出入口袖に設置された揚幕操作盤



大劇場の舞台下手より客席を望む

主な器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	備考
大劇場 調光室	インテリジェント形 調光操作卓	特注	1	・制御回路数4096回路 ・SM40本×20ページ×6バンク ・2000シーンメモリ ・TFTディスプレイ14台
	プリセットフェーダ盤	特注	1	・PF240本×3段 ・バックアップSM10本
	色選択ボックス	特注	1	12か所×24色
小劇場 調光室	インテリジェント形 調光操作卓	特注	1	・制御回路数4096回路 ・SM30本×20ページ×6バンク ・2000シーンメモリ ・TFTディスプレイ3台
	プリセットフェーダ盤	特注	1	・PF200本×3段 ・バックアップSM10本
	色選択ボックス	特注	1	12か所×24色